2013 年 度 入 学 試 験 問 題

世 界 史 B

（試験時間　13：25～14：25　60 分）

1．この問題は，入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ，解答してください。

2．解答用紙は，記述解答用紙のみです。

3．解答は，必ず解答欄に記入してください。なお，解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。

4．解答は，ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用し，訂正する場合は，プラスチック製の消しゴムを使用してください。

5．解答用紙には，受験番号と氏名を必ず記入してください。

I　以下の文章中の空欄A～Jに最も適切な語句を入れたうえで，続く設問に答えなさい。ただし，同じ記号の空欄内には同じ語句が入る。(50点)

現在のイベリア半島には，約40万年～50万年前から人間が居住していた跡がみられるという。最初は原人，続いてネアンデルタール人の後，新人であるクロマニョン人は，約1万5000年前の制作とされる（　A　）の洞穴壁画のようなすぐれた先史美術を残した。

こうした旧石器時代をへて新石器時代に入る頃には，イベリア人と呼ばれる先住民がイベリア半島に住んでいたとみられる。その後，前1000年をすぎた頃からは，ピレネー山脈を経由して北からケルト人がイベリア半島に入った。また，イベリア半島のうち地中海に面した海岸地方には，交易を目的としてフェニキア人，カルタゴ人，ギリシア人などが訪れ，植民活動を行っていく。本来，カルタゴはフェニキア人の都市国家である（　B　）が前9世紀にアフリカ北岸に建設した植民市であった。しかし，アッシリアが（　B　）を滅ぼした後は，カルタゴが西地中海におけるフェニキア人の交易拠点を押さえ，イベリア半島におけるフェニキア植民市も引き継ぐことになる。その後，前6世紀の後半以降にカルタゴ人はギリシア人との勢力圏争いに勝利し，イベリア半島の交易をほぼ独占することに成功した。

だが，前3世紀になると，西地中海の支配権をめぐってカルタゴとローマの間で3度に及ぶポエニ戦争（前264～前146年）が勃発する。第1次ポエニ戦争の敗北後，イベリア半島ではハスドルバルがカルタゴ=ノヴァを置き，半島支配の拠点とした。ハスドルバルの暗殺後，その後継者のハンニバルは第2次ポエニ戦争の際にアルプス越えを果たしてイタリアに侵入し，カンネーの戦いなどでローマ軍に大打撃を与えた。これに対して，ローマはスキピオをイベリア半島に派遣し，カルタゴ植民市を攻略させる。その結果，前209年にはカルタゴ=ノヴァが陥落し，前206年にはイベリア半島からカルタゴ勢力を駆逐することに成功した。さらに，前201年のザマの戦いでスキピオが率いるローマ軍はハンニバル軍を打ち破り，最終的な勝利を収めることになる。これにより，イベリア半島はローマの支配下に組み込まれた。ちなみにローマは，第2次ポエニ戦争中からイベリア半島にヒスパニア属州を置いていたが，この属州の名前がイスパニア（スペイン）の由来である。

その後も内陸部を中心に反抗勢力が残存したものの，ローマはそれらを徐々に制圧し，イベリア半島の支配権を確立してゆく。帝政時代に入ってからは現地住民の激しい抵抗も下火となり，1世紀から2世紀には都市部を中心にローマ化が進んでいった。①ローマ五賢帝に数えられるトラヤヌス帝とハドリアヌス帝は，ヒスパニア出身の皇帝として知られている。

375年のゲルマン人の大移動は，イベリア半島の歴史にも大きな影響を及ぼした。当初，ヒスパニアにはヴァンダル族などが入ったが，その後は西ゴート族が進出して勢力を拡大し，南ガリアとヒスパニアの大部分を支配する王国を築いた。だが，フランク族を統一したクローヴィスがガリアにフランク王国を建国すると，西ゴート王国との対立が激化していく。507年のヴイエの戦いに敗れた後，西ゴート王国は（ガリアの一部を除いて）ほぼイベリア半島のみを領土とすることになった。

527年に即位した東ローマ帝国のユスティニアヌス帝は，ゲルマン族に奪われたローマ帝国時代の領土を取り戻すために，積極的な軍事活動を展開した。この結果，東ローマ帝国は，ヴァンダル王国および東ゴート王国を滅ぼすとともに，西ゴート王国にも狙いを定め，一時はイベリア半島の南半分の制圧に成功する。これに対して，568年に即位した西ゴート王レオヴィギルドは，東ローマ帝国軍を大幅に押し返して西ゴート王国の支配権を拡大し，首都を（　C　）に定めた。その後，西ゴート王国は625年までにはイベリア半島南部から東ローマ帝国軍を駆逐したという。

だが，西ゴート王国の王権は概して不安定であった。そのため，②イスラーム軍が711年にアフリカ北岸からジブラルタル海峡を渡ってイベリア半島に侵攻した時にも，王国は深刻な内紛状態にあり，イスラーム軍を迎え撃ったロデリック（ロドリーゴ）王も戦死してしまう。この時をもって西ゴート王国は滅亡したとされる。これ以後もイスラーム軍の快進撃は続き，残る討伐対象はイベリア半島北部のアストゥリアスの山岳地帯に立てこもったキリスト教徒のみとなった。だが，これらのキリスト教の残存勢力は，結果的にはイスラーム軍による殲滅（せんめつ）を免れた。こうして，イスラームはイベリア半島全体をほぼ勢力下におさめたが，この時に根絶やしせずに放置したキリスト教勢力は，後に国土回復運動（レコンキスタ）をつうじてイベリア半島の歴史を大きく転換させていくことになる。

その後，強盛をほこったウマイヤ朝も750年に③アッバース朝によって取って代わら

れてしまう。この時，アッバース家は権力基盤を安定させるためにウマイヤ家関係者の抹殺をはかった。だが，ウマイヤ家の１人は辛くもイベリア半島に逃れ，アッバース朝に対抗して（　D　）に都をおく王朝を建てた。後ウマイヤ朝（756～1031年）である。この王朝は第８代のアブド=アッラフマーン３世の頃に全盛期をむかえたが，その後は激しい内紛のために衰退し，後ウマイヤ朝の滅亡後は（　D　）を中心につながっていたセビーリア，グラナダ，（　C　）などの都市が独立を宣言し，小王国を形成することになった。

これに対してイベリア半島北部では，８世紀初めの西ゴート王国滅亡直後から，キリスト教勢力によって国土回復運動（レコンキスタ）が展開されていく。1037年にはカスティリャ王国がレオン王国を併合し，その後，カスティリャのアルフォンソ６世が1085年に（　C　）をイスラーム勢力から奪還した。これを受けて，セビーリア，グラナダなどのイスラーム諸王国は，イベリア半島の対岸にある北アフリカのイスラーム勢力に救援を求めることになる。

11世紀半ばの北アフリカでは，先住民のベルベル人（ムーア人）によるイスラーム教への改宗が急速に進み，（　E　）を都としてムラービト朝（1056～1147年）が興っていた。その後，ムラービト朝は同じく（　E　）を都とするムワッヒド朝（1130～1269年）に取って代わられたが，両王朝とも国土回復運動に対抗するためにアフリカ④からイベリア半島に軍隊を派遣したものの，最終的には敗北を喫することになった。

その間にも，キリスト教徒による国土回復運動は着々と進んでいく。1479年には，この運動で中心的な役割を果たしてきた前述のカスティリャ王国と11世紀に建国された（　F　）王国とが合併し，スペイン王国が成立する。当時，イベリア半島のイスラーム勢力としては唯一，グラナダとその周辺地域を勢力圏とするナスル朝が孤塁を守っていた。だが1492年，スペイン王国はついにグラナダ⑤を陥落させ，イベリア半島最後のイスラーム王朝を滅ぼして国土回復運動を完成させた。その後，イスラーム教徒の多くは海を渡って北アフリカに引き揚げたという。

ポルトガルには出遅れたものの，イベリア半島からイスラーム勢力を一掃した後，スペインは積極的に海外進出をはかっていく。その結果，女王イサベルの援助を受けたコロンブスが大西洋を西進し，バハマ諸島のサンサルバドル島に到着した。また

1519年には，スペイン王室の命令によりマゼランが西回りの航海に出発する。マゼラン自身は南アメリカ大陸南端の海峡（マゼラン海峡）をへて太平洋に入り，フィリピンに至ったところで死亡したが，その後，彼の船団の中の1隻がアフリカ周りで1522年にスペインに帰りつき，史上初の世界周航を成し遂げた。

⑥アメリカ大陸到達後，スペインは軍隊を送り込み，征服活動を開始する。この結果，1521年にコルテスがアステカ王国を滅ぼし，メキシコを征服した。ついで，1533年にピサロがインカ帝国を滅ぼす。スペインの植民者たちは，アメリカ大陸の先住民を労働力として酷使した。もちろん，聖職者ラス=カサスのように，先住民の救済に努力した人物も一部にいたことは事実である。だが，先住民の人口は過酷な労役や伝染病のために激減し，その後，ブラジルを除くラテンアメリカにおいて，スペインによる植民地化が進められていく。またスペインは，アメリカ大陸の先住民と西アフリカから連れてこられた黒人奴隷を働かせて鉱山経営を行い，莫大な金銀を独占した。

16世紀はスペインの全盛期であった。スペイン=ハプスブルク家のカルロス1世は，1519年にはカール5世として神聖ローマ帝国の皇帝にも選出され，スペイン，オーストリア，アメリカ大陸の植民地などを合わせ，広大な領域を支配した。だが，対外的には宿敵フランスの脅威に加えて東方からのオスマン=トルコの進出により，対内的にはルターの宗教改革により，彼の治世の大半は軍事的・宗教的にハプスブルク帝国を維持することに費やされた。

1556年，カルロス1世はスペインなどを息子のフェリペに，オーストリアを弟のフェルディナントに与えて退位した。スペインを継承したフェリペ2世は，1571年のレパントの海戦に勝利し，オスマン=トルコの脅威を一時的に弱めた。また，1580年には王家の断絶に伴う混乱に乗じてポルトガルを併合し，ポルトガルが領有していた広大な海外領土と合わせ，「太陽の沈まぬ国」をつくり上げた。

だが，1700年のカルロス2世の死に際し，今度はスペイン=ハプスブルク家が断絶してしまう。この時，フランスのルイ14世は孫であるフェリペのスペイン王位継承権を主張し，イギリス・オランダ・オーストリアと争った。スペイン継承戦争である。結局，1713年の（　G　）条約により，フランスとスペインは永久に合邦しないという条件つきでフェリペ（5世）のスペイン王位継承が認められた。また，それとともに，ジブラルタルやハドソン湾地方などがスペインおよびフランスからイギリスに

割譲されることになった。このフェリペ5世がスペイン=ブルボン朝の祖である。

1789年に勃発したフランス革命は，紆余曲折をへてナポレオン=ボナパルトを歴史の表舞台に登場させた。フランス革命後のスペインは，国王夫妻の信頼を得たゴドイが同じブルボン家のルイ16世を救うために奔走し，ルイ16世の処刑後はフランスと戦闘をまじえたこともあった。だが，ナポレオンが実権を握ると，ゴドイの対外政策はナポレオンの意向に左右されるようになる。1805年のトラファルガーの海戦では，フランス・スペイン連合艦隊はイギリス艦隊に壊滅させられた。これにより，18世紀半ば以来続いてきたスペイン海軍の再建努力は挫折し，スペインとアメリカ植民地との間の連絡が途絶することになった。

その後，ナポレオンはスペイン支配への野心を露わにしていく。彼は，スペイン国王に加えて王子もフランスに移すように画策し，⑦それに反対する民衆とフランス軍との間で衝突が起こると，国王に退位を迫り，自分の兄であるジョセフをスペイン王位につけた。

だが，ナポレオンのイベリア半島侵攻に対して，スペインでは農民を中心に民族意識の高揚に基づく抵抗運動が起こった。いわゆるスペイン反乱（1808～14年）である。この時，ナポレオンに敵対するイギリスがスペイン反乱軍を支援したこともあり，ナポレオンは最後まで反乱軍に手を焼き，鎮圧することができなかった。結局，ナポレオン敗北後のスペインでは，タレーランが提唱した正統主義によりブルボン王家が復活した。これに対して，リェーゴらは1820年にカディスで（　H　）を起こして専制政治の打倒を目指した。しかしながら，1823年におけるフランス軍の干渉により挫折し，20世紀まで王政が維持された。

ところで対仏戦争中のスペインは，海軍の弱体化によりアメリカ植民地との連絡を寸断され，国内も混乱状態にあった。その間隙を突く形で，1810年代に入ると⑧ラテンアメリカ諸国は次々とスペインから独立を果たしていく。イギリスも自国商品のさらなる輸出先としてラテンアメリカ市場を位置づけ，アメリカ合衆国とともにラテンアメリカ諸国の独立を承認・支援した。

19世紀末になると，欧米諸国は帝国主義の時代をむかえる。アメリカ合衆国が1890年に国内フロンティアの消滅を宣言すると，国内では海外進出を求める声が強まっていく。そうした中で，⑨アメリカ=スペイン（米西）戦争が勃発する。この戦争

においてアメリカはスペインに大勝し，海外進出を加速させていくことになった。

ところで，前述のように，対仏戦争後に復活したスペイン=ブルボン朝は，1868年の革命で女王イサベル2世がフランスに亡命して空位となったこともあったが，20世紀に入っても続いていた。しかし，世界恐慌はスペインにも深刻な影響を及ぼしていく。この結果，1931年の地方選挙で共和派が勝利を収めたことを契機にブルボン朝のアルフォンソ13世が退位・亡命し，スペイン共和国が成立した。共和国政府はヴァイマル憲法を範とする新憲法を制定したが，土地の解放を含んでいなかった点で踏み込み不足の観は否めず，また地主・教会・軍部・資本家らの激しい巻き返しもあり，スペインの政治状況は不安定であった。

こうして，1936年に穏健共和派から無政府主義者までを含む形でスペイン（　I　）が結成された。その後，アサーニャ大統領を中心とする内閣は，土地改革や教会の特権の廃止などの積年の課題に果敢に取り組んでいく。しかし，こうした動きに反対する勢力に支持された（　J　）がモロッコで反乱を起こし，スペイン内戦⑩が勃発することになる。この結果，（　I　）内閣は倒れ，（　J　）は自分を国家主席とする独裁政治を敷き，1975年に死亡するまでこうした独裁体制を維持し続けた。

だが，その死後，スペインではブルボン王家直系のフアン=カルロス1世が即位して王政が復活すると同時に，その下で国民投票が実施され，主権在民，基本的人権の尊重，国王を国民統合の象徴とすることなどを定めた新憲法が公布された。こうして，スペインの民主化が進展することになる。経済的にはスペインは1986年にＥＣ（ヨーロッパ共同体）に加盟し，1999年からはユーロが導入された。しかし，2008年のリーマン・ショックにより不動産バブルが崩壊し，スペインの銀行は多額の不良債権を抱え，経済は深刻な影響をこうむっている。スペインはＥＵ（ヨーロッパ連合）内で第4位の経済規模をもつ国であるという点でも，今後の動向が注目されている。

問1　下線部①に関連して，その一人に数えられるマルクス=アウレリウス=アントニヌス帝が著したストア哲学の代表的書物の名前は何か。

問2　下線部②に関連して，この時期までのイスラームに関係する出来事を年代順に並べ替えなさい。

ア．アリーが暗殺される。

イ．アブー=バクルがカリフに選出される。

ウ．ムアーウィヤがダマスクスにウマイヤ朝をひらく。

エ．ニハーヴァンドの戦いに勝利し，ササン朝に決定的な打撃を与える。

オ．ムハンマドが少数の信者を率いてメッカからメディナに移住する。

問3　下線部③に関連して，アッバース朝に関する記述のうち正しいものを，次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．アラブ人とイラン人などとの間の民族的差別は依然として残っていた。

イ．開祖アブー=アルアッバースは首都バグダードを造営し，帝国の基礎をかためた。

ウ．ハールーン=アッラシードの治世中に全盛期をむかえた。

エ．マンスールは学芸の奨励につとめ，イスラーム文化の黄金時代をもたらした。

オ．後にイル=ハン国を建てることになるバトゥにより1258年に滅ぼされた。

問4　下線部④に関連して，アフリカに興った以下の諸王国を建国された順に並び替えなさい。

ア．アクスム王国（エチオピア王国）

イ．モノモタパ王国

ウ．ガーナ王国

エ．ソンガイ王国

オ．マリ王国

問5　下線部⑤に関連して，グラナダに残るイスラーム建築を代表する宮殿の名前は何か。

問6　下線部⑥に関連して，アメリカ大陸原産の作物でないものを，次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．小麦

イ．さつまいも

ウ．じゃがいも

エ．とうもろこし

オ．トマト

問7　下線部⑦に関連して，この事件をモデルに「1808年5月3日」という作品を描いた画家は誰か。

問8　下線部⑧に関連して，以下の記述の中で正しいものを，次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．アルゼンチンはサン=マルティンの指導で独立を果たした。

イ．独立運動を主導したのは，メスティーソと呼ばれる植民地生まれの白人である。

ウ．ウィーン体制を指導するカニングは，ラテンアメリカ独立運動を弾圧した。

エ．メキシコの独立運動を指導したのは，トゥサン=ルヴェルチュールである。

オ．シモン=ボリバルは，ベネズエラ，チリ，大コロンビアの独立に尽力した。

問9　下線部⑨に関連して，この戦争の原因と結果を次の語群から6つの用語を用いて100字以内で説明しなさい。なお，使用した語には必ず下線を引いて明示すること。

メキシコの独立運動，キューバの独立運動，ハイチの独立運動，キール軍港の水兵反乱，無制限潜水艦作戦，アロー号事件，米艦メーン号の爆沈事件，メキシコの独立，キューバの独立，ハイチの独立，フィリピン，インドネシア，ハワイ，サイパン，グアム，プエルトリコ，ドミニカ，パナマ

問10　下線部⑩に関連して，戦争中の無差別爆撃に対して強い怒りをおぼえたピカソが描いた作品の名前は何か。

II　以下の文章を読んで，設問に答えなさい。(50点)

茶樹の原産地は諸説あるがおおよそ①現在の中国西南部からインド東北部アッサム州にかけての一帯と推定される。茶樹はツバキ属の木であり，主に葉から作られる飲料は「茶（中国語 chá，英語 tea，アラビア語 shay，ロシア語 чай)」として世界中に広まっている。茶はコーヒーとともに地球上で最も人気のある飲料といっても過言ではない。さまざまな民族が茶を求める理由はそれが含有するカフェインにあるようだ。

中国では早くも漢代に茶に関する記述が現れる。②魏晋南北朝までに茶の栽培は長江中下流域に広がった。ただしこの時代の茶の飲み方は今と異なる。茶葉を蒸してつき固め，あぶって大きな餅状に固めるのである。これを「磚茶（てんちゃ）」という。飲むときは適宜砕いたものを粉末になるまでひいてから鍋に入れて煮出し，ひしゃくで茶碗に注いでいた。

③隋代には南北が統一されて大運河が開かれ，長江以南で栽培されていた茶葉が都へ運ばれた。唐代には茶の栽培が北方にも広まる。唐末には茶は桑や漆のように収益を得られる商品作物となり，政府による専売制が試みられたり課税されたりした。陸羽が『茶経』を著して茶樹の栽培法から茶葉や茶器の善し悪し，茶のいれ方までを論じたのもこの時代であった。通になるといれるべき水やそれをわかすためのまきにまでこだわったという。

④宋代になると作付に対して課税された上に収穫した茶を政府に低価格で売り渡さねばならなかった。茶商人にも統制が及び，「茶引（ちゃいん）」と呼ばれる引換券を政府から買い，それを持って官営の取引所で茶と交換することが強制された。ある地域では農家から1斤（約600 g）あたり銅銭90枚で茶を買い上げる一方，茶引を銅銭300枚で茶商人に売りつけていたという。このような状況であったから茶の闇栽培と闇取引が絶えなかったと史書は述べる。南宋末には磚茶のように摘んだ茶葉を蒸すのではなく，高温で加熱して乾燥させる「散茶」が主流となった。現代と同様，この乾燥した茶葉に直接湯を注いで茶をいれるのである。

そこで散茶をいれるため急須が発明された。明代には宜興（ぎこう）周辺で取れる紫砂（しさ）という土から作られた急須や景徳鎮の磁器茶碗が著名な茶器となった。特に景徳鎮の磁器が誇る鮮やかな青色は元代に⑤ペルシアよりもたらされ始めたコバルト顔料によるもので

あった。こうした中国茶器は当時の西欧のトレンドであるシノワズリ（中国趣味）に不可欠の小道具としてヨーロッパへ輸入された。

また，福建省武夷山で半発酵の烏龍茶が開発されたのもこの時期である。後にヨーロッパ人が茶を買い付けるようになると，その好みに応じて完全発酵の紅茶が生まれる。紅茶の種類を表す英語コングー（congou），スーチョン（suchong），ペコー（pekoe）などの用語はそれぞれ中国語「工夫」「小種」「白毫」に由来するといわれるが，茶を介した中国とヨーロッパの関係をよく表す例であろう。

⑥清朝の皇帝は遊牧民たる満州族の風習を受け継ぎ，緑茶の他にミルクティーをも好んだ。茶に家畜の乳を混ぜて飲むのは遊牧民の風習である。同時にジャスミン，キンモクセイ，バラなどの花の香りを付けた「花茶」も華北に広まった。

一方，ヨーロッパ人が茶にはじめて言及するのは16世紀初である。その100年後，ヨーロッパに奢侈品として茶葉がもたらされた。⑦例えばフランスのルイ14世の宰相マザランは茶の愛飲家として知られる。同じ頃，ロンドンのコーヒーハウスではコーヒーの他に健康飲料として茶も提供し始めていた。この頃の茶は薬の一種と見なされていたようである。

1660年，イギリスは茶1ガロン（約4.5リットル）につき8ペンスの税を課した。この税率はコーヒーの2倍である。1689年にはイギリス東インド会社がはじめて茶を中国からイギリスへ直輸入することに成功，1705年には中国にて4700ポンドで買い付けた約28.5トンの茶葉が，ロンドンでの競りにおいて5万1000ポンドの値をつけた。それほどの人気商品だったということである。1717年にはロンドン初のティーハウスが開業した。ティーハウスの店主トワイニングの名は，現代まで続く紅茶ブランドとして残っている。1721年には茶の輸入量が年間450トンを越え，胡椒，木綿，絹を抜いて東インド会社の最重要商品となった。茶の消費の増大は新大陸からもたらされる砂糖の消費をも促し，⑧1660年からの40年でイギリスの一人あたり砂糖消費量を2倍にまで押し上げる要因の一つともなった。

他のヨーロッパ諸国とは逆に，イギリスでは茶がコーヒーを圧倒した。むろんこれはイギリス東インド会社が広東での茶葉貿易をほぼ独占できたからである。しかし中国側はイギリス製品を輸入する必要を感じなかったため，イギリスでは中国側へ支払う銀が枯渇し，巨大な貿易赤字が発生した。この解決策としてイギリスは⑨インド産の

麻薬であるアヘンを茶の支払いに充て，中国～イギリス～インドを結ぶ三角貿易が成立する。1830年代には中国から銀が流出するようになり，深刻な貿易赤字とアヘン中毒者の急増はともにアヘン戦争の遠因となった。

1834年，イギリス東インド会社は中国での通商独占権を失う（通商独占権廃止の議決は1833年。1834年4月施行）。その結果，東インド会社が妨害し続けてきたイギリス植民地での茶樹栽培が可能となった。⑩栽培地には気候的な条件からインド，ネパール，スリランカが選ばれた。アッサム，ダージリン，ニルギリ，セイロンなどは今や紅茶の名として有名であるが，もとは茶樹が植えられた土地の名前である。

⑪茶は海路だけではなく陸路でも伝わった。例えばロシアでは17世紀後半にはモスクワまで中央アジアを横断して茶が伝わっていたようである。当時の陸路による茶の輸送と取引は以下のようなプロセスをたどる。まず中国商人が春に武夷で紅茶を買い付け，北京北西の張家口（ちょうかこう）という街まで託送する。隊商がここで編成され，牛車やラクダに紅茶を積みこむ。隊商はモンゴル高原を2400キロに渡って横断し，国境にあるキャフタの街に至る。キャフタでは中国側から茶のほかに磁器やタバコが提供され，ロシア側からは毛皮や皮革が提供された。そしてロシア人は手に入れた茶を6000キロ西にある，モスクワにほど近い商都ニージニーノヴゴロドまで馬車とそりで運んだのである。茶の交易量はロシアで喫茶の習慣が広まるにつれ発展し，⑫1750年の約200トンから1810年の約1200トンに増加している。

しかし19世紀後半にキャフタ交易は危機を迎える。⑬1870年代にはインド洋～黒海という海路でロシアへ茶を運ぶ新たなルートが開発され，キャフタ経由で運ばれる茶との競争がおこったのである。打撃を受けたキャフタの茶葉交易は19世紀末のシベリア鉄道開通によって完全に衰退することとなった。

しかし，黒海が茶の交易ルートとなったことはある副産物をもたらした。⑭トルコが茶を比較的容易に輸入できるようになったのである。トルコでは19世紀まで茶は奢侈品であったが，黒海ルートが開発されたことに伴い20世紀に入ると茶の輸入量が増え，喫茶の習慣が広まる。トルコではロシアのサモワール（紅茶をいれるための湯沸かし器具）を取り入れると同時に，チャイダルバックというグラスも茶器として発達した。トルコを含めた現在の中東では⑮イスラエルを除き，コーヒーよりも茶のほうが飲まれている。主要な茶の消費国上位30カ国のうち15カ国は⑯北アフリカおよび中

東のイスラム諸国であるという。

問1　下線部①について，中国のこの地域について述べた文として誤っているものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．魏・呉・蜀の抗争する三国時代において，劉備の建てた蜀が最も早く滅亡した。

イ．10世紀の雲南では大理が南詔を滅ぼした。

ウ．モンゴルの雲南侵入によって南下したタイ人は13世紀にスコータイ朝を建てた。

エ．清朝は初期に雲南，広東，福建に呉三桂ら漢人の武将を配置し藩王とした。

オ．日中戦争中，国民政府は首都を順に南京，武漢，成都へ移し日本軍に抵抗した。

問2　下線部②について，この時期の出来事について述べた文として正しいものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．朝鮮半島では楽浪郡を滅ぼした高麗と百済，新羅が抗争する三国時代であった。

イ．北魏が東魏と西魏に分裂した後，西魏は北周に取って代わり，北周は隋に交代した。

ウ．農民生活の安定と税の確保のため，魏では屯田制，晋では均田制，北魏では占田・課田法が試みられた。

エ．竹林の七賢に代表されるような，儒教を題材とする哲学談義である清談が流行した。

オ．邪馬台国の卑弥呼は北魏に使いを送り「親魏倭王」の称号を与えられた。

問3　下線部③について，隋および唐代の出来事について述べた文として誤っているものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．唐は当初均田制にもとづいて租庸調を徴収したが，大土地所有の発達により機能しなくなったため新たに両税法が採用された。

イ．煬帝は大運河の建設を始め，湖北と湖南を結ぶ大動脈を後世に残した。

ウ．則天武后は科挙官僚を重用し，貴族層に代わって科挙官僚が台頭するきっかけを作った。

エ．日本の天平文化は遣隋使・遣唐使によって輸入された隋・唐の文化の強い影響を受けている。

オ．広州は海路による貿易港として栄え，多くのムスリム商人が来航した。

問4　下線部④について，宋代の経済について述べた文として正しいものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．宋と西夏の間で澶淵の盟が結ばれて以後，軍事費に加えて西夏に贈らねばならない銀や絹が財政を圧迫していた。

イ．高宗によって宰相に任じられた王安石は新法を開始して青苗法，均輸法などを実施した。

ウ．銅銭や陶磁器の交易によって民間貿易が発展し，泉州・広州などの港町には市舶司が置かれた。

エ．北宋時代には手形から発達した交子・会子が紙幣として発行され，銅銭が使用されなくなった。

オ．商業の発展に伴い，州や県の城壁外および交通の要地には行や作と呼ばれる商業の中心地が生まれた。

問5　下線部⑤について，ペルシアの歴史について誤っているものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．アケメネス朝のダレイオス1世はフェニキア人の海上貿易を保護し，金貨や銀貨を発行し財政を整えた。

イ．ササン朝のシャープール1世は突厥と結んで中央アジアの遊牧民であるエフタルを滅ぼした。

ウ．サファヴィー朝のアッバース1世は都をイスファハーンに移し，ヨーロッパ諸国と初めて外交・通商関係を結んだ。

エ．カージャール朝はロシアとの戦いに敗れてトルコマンチャーイ条約を結び，治外法権を認めた。

オ．イラン革命の混乱に乗じてイラクはイランに侵攻し，1980年代にイラン=イラク戦争が起こった。

問6　下線部⑥について，清朝の時代に起きたこととして正しいものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．明代以来の一条鞭法に代わり，乾隆帝は地丁銀制を全面的に実施した。

イ．イギリスは対中貿易拡大のためマカートニー使節団を派遣し，雍正帝への謁見に成功したが交渉自体は失敗した。

ウ．洪秀全は太平天国の乱を起こして黄河中流域を占領し，李鴻章の淮軍，曽国藩の湘軍と死闘を繰り広げた。

エ．イギリスは威海衛を，ドイツは広州湾を，フランスは膠州湾をそれぞれ租借した。

オ．清朝最後の皇帝溥儀（宣統帝）は後に日本の傀儡として満州国皇帝となった。

問7　下線部⑦について，ルイ14世が在位した時期の中国で起こった事件を以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．康熙帝はロシアとネルチンスク条約を結んだ。

イ．王陽明が心即理，知行合一を唱えて陽明学を創始した。

ウ．ホンタイジは国号をアイシン（金）から清に改めた。

エ．乾隆帝はジュンガル部を滅ぼし東トルキスタンを「新疆」と称した。

オ．土木の変で正統帝がオイラトのエセン=ハンの捕虜となった。

問8　下線部⑧について，この時期のアジアに関して起こった事件を以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．財務総監コルベールによってフランス東インド会社が再建され，イギリスに対抗してインド進出を目指した。

イ．インドではイギリス東インド会社のクライヴがプラッシーの戦いでフランスと地方政権の連合軍を破った。

ウ．オランダがモルッカ諸島のイギリス商館員を虐殺するアンボイナ事件によってオランダのインドネシア支配が確立した。

エ．タイではチャクリ1世（ラーマ1世）がラタナコーシン朝（チャクリ朝）を建てた。

オ．日本では徳川幕府が外国船の来航を清とオランダのみに限るなどして鎖国体制が確立した。

問9　下線部⑨について，銀と引き替えに中国からイギリスへは茶が，インドから中国にはアヘンがもたらされた。ではイギリスからインドにもたらされた最も主要な品目は何か答えなさい。

問10　下線部⑩について，以下のインド史についての記述を，出来事の発生年の順に並べ記号で解答欄に書きなさい。

ア．ネルーらがインドの完全独立（プールナ=スワラージ）を決議した。

イ．インド独立運動を弾圧するためローラット法が制定された。

ウ．インド独立の父ガンディーが急進的ヒンドゥー教徒に暗殺された。

エ．ネルーと周恩来は会談して平和五原則を提唱した。

オ．インドの協力を得てパキスタンからバングラデシュが独立した。

カ．ベンガルをイスラーム教徒の多い東部とヒンドゥー教徒の多い西部に分かつベンガル分割令が発せられた。

キ．ヴィクトリア女王はインド皇帝に即位してインド帝国が正式に成立した。

問11　下線部⑪について，内陸アジアについて述べた文として正しいものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．大月氏と同盟して匈奴を討つため，前漢の張騫は武帝の命を受け西域へ使いした。

イ．大興安嶺周辺には敦煌やカシュガルのようなオアシス都市が点在し，隊商交易の中継地となった。

ウ．タラス河畔の戦いで漢軍の捕虜から製紙法がイスラーム側に伝えられた。

エ．モンゴルは駅伝制を実施して交通路を整備し，主にソグド商人がそれによる交易を担った。

オ．ローマ教皇はルブルックを使節としてモンゴルに派遣した。

問12　下線部⑫について，この時期のロシアに関する出来事を以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．ロシア=トルコ戦争の結果サン=ステファノ条約が結ばれた。

イ．ラクスマンが北海道に来航してロシアとの通商を求めた。

ウ．ナポレオンがロシアに遠征するが失敗した。

エ．青年貴族将校がデカブリストの乱を起こしたが失敗した。

オ．ロシアは清朝と北京条約を結んで沿海州を獲得した。

問13　下線部⑬について，これは1869年に開通した運河によりインド洋から黒海までの距離が大幅に短縮されたことによる。この運河の名を答えなさい。

問14　下線部⑭について，オスマン帝国の領土拡大について以下の語をすべて用い，200字以内で説明しなさい。なお，使用した語には必ず下線を引いて明示すること。

メフメト2世，セリム1世，スレイマン1世，ビザンツ帝国，イラン，シリア，エジプト，ウィーン，イェニチェリ，地中海

問15　下線部⑮について，イスラエルとその周辺地域について述べた文として正しいものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．第一次大戦中イギリスはバルフォア宣言によって，パレスチナのアラブ人が連合国側へ協力することを条件に将来の独立を約束した。

イ．第一次大戦中，連合国はフセイン（フサイン）・マクマホン協定を結んで戦後のオスマン帝国分割を約束した。

ウ．国連によるパレスチナ分割案を拒否して建国されたイスラエルは，パレスチナ戦争（第一次中東戦争）でアラブ諸国を破った。

エ．第四次中東戦争を受けたアラブ石油輸出国機構の石油戦略などにより，第一次石油危機（オイル=ショック）が起こった。

オ．1993年，ターリバーンのアラファトはイスラエルとの間でパレスチナ人の暫定自治樹立で合意した。

問16　下線部⑯について，近現代のこの地域についての記述として誤っているものを以下のア～オの中から一つ選びなさい。

ア．イラクのサダム=フセインはクウェートへ侵攻し，湾岸戦争の原因を作った。

イ．フランスのド=ゴール政権はアルジェリア独立を認めず，第四共和制が倒れた。

ウ．エジプトのサダト大統領はエジプト=イスラエル平和条約を結んだが，その後反対派に暗殺された。

エ．イランではホメイニを指導者とするイラン革命によってパフレヴィー朝が滅び，イラン=イスラーム共和国が成立した。

オ．トルコ，イラン，イラクなどがバグダード条約機構を結成し，のち中央条約機構と改称した。